

〈学校経営方針の重点〉
 1. 確かな学力の向上 2. 豊かな心の育成 3. 健やかな体の育成 4. 地域と共に歩む学校づくり

【経営目標】 基礎・基本を大切に、「学ぶ楽しさ」「分かった」「できた」という達成感をもたせられる授業づくりを行う		【本年度の重点】 自分の考えを整理し、伝える力を伸ばし、基礎・基本の定着を図る		学校関係者評価記入欄		学校の見解と今後の方向性		
具体的な方策	評価	担当	分析結果	改善策	コメント			
1 確かな学力		A	研究	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 各教科で「楽しい」「分かった」という児童の思いを大切に、教材研究を進めながら授業改善に努めている。 校内研究の代表授業を通して、児童が主体的に話し合い活動に参加している様子が見られる。 グループ活動や全体討議など、教科ごとに話し合いの場を意図的に設定している。 学級会活動が前年度より定着し、児童の話し合いスキルや活動の質が向上している。 階段踊り場の掲示物が良い刺激となり、各学級の学級会活動の促進につながっている。 特別活動の研究（2年目）により、どの学年でも活発に話し合い、会の運営に主体的に取り組んでいる。 <p>【課題】</p> <p>①一部の学級で、学力面や「相手を考えた行動」の未成熟さが見られ、授業・活動の基盤づくりに影響している。</p>	<p>①特活と連携して情報提供を進め、全体として情報共有する。文科省の動画なども活用できる。これらを教育計画に残す。</p>	<p>評価</p> <p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">A A B A A A</p> <p>コメント</p> <ul style="list-style-type: none"> 昨年度から継続している言語活動への取り組みが、子どもたちに定着してきていると思う。自分の考えを相手に伝える力、相手の考えを聴き理解する力を身に付けることができるよう、引き続き指導を続けてほしい。 各クラスの学級活動の取り組み内容を掲示したり、達成目標を数値化して設定する等も検討して欲しい。 授業改善が進められた結果、児童の話し合い活動が活発になってきている。 児童に対する教員からの個別の声掛けが児童のやる気を大いに引き出すと思う。 友田小学校の教職員は、様々な面で児童のために努力をしていると思う。 	<ul style="list-style-type: none"> 特別活動を中心とする研究を2年間重ねてきたことで、児童の話し合いスキルや活動の質が向上し、良き関わり合いとともに、学び合いの基礎の定着につながっている。次年度の研究の柱は、周年行事へ向けた取組に移行していくが、研究の成果や実践スキルを次年度以降の教育計画に文書として残し、日常の実践を継続していく。 	
	読書活動に力を入れ、読書に親しみ、読む力や想像力を高めていく。	B	B	学情図	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 担任による本の貸し出しが児童の読書意欲につながり、多くの子が積極的に読書する姿が見られた。 週1回以上の図書室利用や朝読書の推進により、読書習慣の定着に一定の成果があった。 読書カード（りんごの実）の増加など、児童の読書量が増えている様子が確認できる。 国語科において関連図書の紹介など、授業と読書活動を関連づける実践が行われている。 読書旬間（年3回）や読書表彰、読み聞かせの実施を通して、特に低学年では読書への意欲付けができてきている。 校長先生による読み聞かせが質の高い読書体験となり、児童の読書への関心向上に役立っている。 <p>【課題】</p> <p>①読書旬間以外の時期で継続的な読書活動の時間を確保することが難しい。</p> <p>②高学年になるほど読書時間の確保が難しく、読書習慣の定着にばらつきがある。</p> <p>③学校全体として「読解力の低さ」を感じており、継続的な読書活動や言語活動の充実が必要。</p> <p>④動画視聴が生活に根付き読書への入りづらさがある中で、来年度に向けて対策を検討する必要がある。</p>	<p>①～④現在の朝学習の時間に朝読書の時間を10分程度設けて、静かに読書する時間を作ることで読書に親しむだけでなく学習に向かう気持ちを作っていくことを提案したい。</p>	<p>評価</p> <p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">B B B B B B</p> <p>コメント</p> <ul style="list-style-type: none"> 教職員の指導の甲斐あって、児童の読書への関心が高まっている。しかし、学校生活の中で読書の時間を十分に確保するかが課題である。 読書によって身に付く「読解力」は様々な学びの基礎基本となるので継続的な取り組みが必要である。 学校外では、ゲームや動画視聴等の時間が優先となり、読書をする時間は以前よりも減っていると思う。読書はある程度量を読むことが大切だと考えるので、読書表彰を取り入れる等、よりやる気が出るような動機付けをしてはどうか。 読み聞かせは、本に親しむことができるとても意義のある活動である。これからも継続してほしい。 児童の興味関心にあった本をそろえたり、歴史漫画等読書のハードルがあまり高くない本を薦めることにより、読書に対する苦手意識を払拭してはどうか。 	<ul style="list-style-type: none"> 読書および活字離れは、全国的な課題である。ゲームや動画視聴等が生活の中で大きな位置を占めている。だからこそ、幼い頃から読書に親しみ、読書の楽しみをつかませることが大切である。 本校では、引き続き、各学期の読書旬間を中心に、読書に親しむ取組の充実を図る。児童の図書委員会も普及に頑張っている。読書通帳の活用と全校での表彰や掲示、読み聞かせ、木曜日に朝読書を一部取り入れるなど工夫していく。
	タブレットなどICT機器の効果的活用、紙とデジタルの有用性を考慮し、学習指導を充実させる。	B	B	学情図	<ul style="list-style-type: none"> 前学年までの経験を活かし、児童がノート・タブレットなど自分に合った媒体を選んで学習できている。 授業の課題提示やまとめ以外のICT活用も模索し、学び合いながら効果的な活用を進めようとしている。 過去2～3年で、ICT機器の授業内での活用が学校全体として定着しつつある。 ICT担当を中心に校内のサポート体制が機能している。 <p>【課題】</p> <p>①デジタル機器への苦手意識が解消しきれておらず、人に聞いてばかりで心苦しさを感している職員もいる。</p> <p>②ICT活用を進めるには、各教室に1台ずつ大型提示装置（電子黒板等）が必要で、機器配置が追いついていない。</p> <p>③ICT活用は学級差が大きく、誰が担任になっても一定レベルで取り組めるよう、学校として具体的な線引き（共通実践）が必要。</p> <p>④授業内でのICT活用は進んでいるものの、目的に応じた多様な活用（課題提示・まとめ以外）をさらに学び合う必要がある。</p> <p>⑤電子黒板が全学年に配置できておらず、ICT活用の最大の利点である「学習者の課題を容易にする」という効果を十分に発揮できていない。</p>	<p>①聞いてばかりで結構です！もっとどんどん聞きましょう。</p> <p>②⑤大型モニターは学級に1台確保できるように管理職も含めて検討していく。</p> <p>③共通実践での線引きというよりは、各教員のニーズに合わせてICTを活用できるようなOJTや相互に教え合うなどの方法を、学校全体で模索していく。</p> <p>④OJTを中心にそれぞれのICT活用を紹介していく。</p>	<p>評価</p> <p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">B B C B B B</p> <p>コメント</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業内でのICT活用は大きく進んでいる。しかしながら、教員の活用能力の個人差は歴然として存在する。その差を埋めていくため、OJTだけではなく、外部講師による講習（トレーニング）等も必要であると感じる。 モラルや常識をもってインターネットが活用できるよう継続的な指導が必要である。 デジタルネイティブ世代の児童は、極自然にICTを使いこなしているように感じる。 個別最適な学びを実現させるため、紙とデジタルをバランスよく活用していく。板書が苦手な子どもたちもいると思われるので、ICTを有効に活用することで、子どもたちの学力の向上のサポートにもなると考える。 子供達が楽しく学べる様な環境、システムなどができればよい。様々なアプリ等も積極的に取り入れていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 電子黒板が次年度、新たに3台配置されることになっている。専科教員の教室と全学級担任の教室で配置可能となり、より日常の授業での活用がしやすくなる。 授業支援ソフトの市としての予算化は叶わなかったが、次年度は新しい授業支援ソフトを取り入れる方向である。（1年間無償） ICTの効果的な活用に向けて、日常の情報連携をはじめOJT研修を計画的に実施していく。

<p>学習課題を工夫し、家庭学習の習慣化を図る。朝学習（算数友小ドリル、電子ドリル）の学習を中心に、既習事項の習熟を図る。</p>	C	教務	<p>【成果】 ・朝学習の時間が確保できた際は、友小ドリルやドリルパークなどを活用して学習を進めることができていた。 ・多くの児童は家庭学習を習慣化できており、日々の取り組みとして定着している。 ・各学年で、家庭学習に工夫を加える取り組みが見られた。</p> <p>【課題】 ①学校行事などで朝学習の時間が確保できず、継続的な学びの流れが途切れやすい。 ②一部の児童は家庭の支援や理解を得ることが難しく、家庭学習の習慣化が進みにくい。 ③紙教材・電子ドリルに関わらず、学級ごとの取り組み状況が把握できておらず、学習効果を評価しづらい。 ④取り組み状況の調査を担任に任せると負担が大きくなり、実態把握と負担軽減の両立が課題となっている。 ⑤家庭学習の定着そのものが難しく、安定した習慣化に向けた学校全体の工夫が求められている。</p>	<p>①朝学習の時間は設定されているが、テスト返却なども行っている現状がある。学校全体として本格的に取り組む必要がある。 ①本格的に始めるのであれば、友小ドリルから見直す必要がある。（単元の順番が合っていないものがあるため）また、算数専科が中心となって調査から行えるのであればやっていきたい。 ①朝学習の時間を、火曜日は友小ドリル、木曜日は電子ドリルか読書など、次年度に向けて方針を固めて取り組んでいく。 ③④各学年の朝学習の取り組みをOJTの時間を使って共有し、今後の取り組みに生かしていく。 ⑤引き続き家庭に向けて啓発を行っていく。家庭学習の取り組みを、学級通信などで配信すると、家庭からの協力が得やすい。</p>	<p>・家庭学習について、保護者と児童本人の意識に差が見られる。また、家庭学習は保護者の協力・サポートが必要となるが、家庭によりその差は大きい。 ・朝学習や授業の中で、短時間であっても継続的に小ドリル等に取り組ませるのはどうか。スモールステップで着実に力をつけていくことが可能になると考える。 ・家庭学習に取り組むことでどのような効果が出るのか、検証・実証できる工夫があると思う。 ・インターネット、テレビと情報化社会の中、家庭学習を妨げる物が多く、厳しいと思うが、家庭学習の工夫を推進して欲しい。</p>	<p>・全校が一致して取り組む朝学習の実施状況を全体で共有した。東京ベーシックドリルを組み合わせた「算数友小ドリル」プリントを火曜日に、木曜日には、電子ドリルまたは朝読書を実施していく。 ・家庭学習の取組は、各学級が工夫して実施している。今年度、文書共有を行った。次年度はOJT研修として、各学年の実態や課題を共有し、取組の充実を図りたい。</p>
---	---	----	--	---	---	--

【経営目標】
命を大切に、思いやりの心や社会規範を身に付けた子供を育成する

【本年度の重点】
基本的な生活習慣を養うとともに、豊かな関わり合いを通して、いじめをなくし、他者を大切にすることを育成する

具体的な方策	評価	担当	分析結果	改善策	学校関係者評価記入欄	学校の見解と今後の方向性
					コメント	
<p>挨拶について、各学級で指導し、振り返りの時間を設ける。家族、友達、教職員、地域の知り合い等に、自分から挨拶ができるように指導する。</p>	C	生活	<p>【成果】 ・職員が登校時に積極的に挨拶を行い、挨拶の雰囲気づくりに取り組んでいる。 ・挨拶運動や児童会の取り組みにより、活動期間中は挨拶が増えるなど効果が感じられている。 ・各学級であいさつ・返事の指導を継続して行っている。 ・挨拶運動が継続的かつ積極的に行われており、学校全体での意識づくりにつながっている。</p> <p>【課題】 ①大人から挨拶をしても返ってこない児童が一定数おり、挨拶の定着にはまだ課題が残っている。 ②挨拶運動の期間は挨拶が増えるが、期間外でも定着させていきたい。 ③児童自身が挨拶の意識を高めていけるような振り返りをしていく。 ④挨拶にさらに力を入れていくためには、従来の挨拶運動に加えて一歩進んだ新しい取り組みが必要である。</p>	<p>①～④挨拶をすると気持ち良いという感覚や挨拶の効果を実感できると良い。特別活動から挨拶をすることでスタンプがもらえる等の案が児童から出てくると良い。児童が主体的に実施できるような取り組みを特活部とも連携して検討する。</p>	<p>・挨拶は社会生活において基本となるものであり、習慣化して自然とできるようにしたい。継続的な指導をお願いしたい。 ・自治会をはじめ地域と一体化した取り組みが必要であると感じる。また、家庭での指導も欠かすことができないと思う。 ・学校を訪問した際に、挨拶をすると返してくれる子どもたちがたくさんいる。自分から挨拶ができる子どもたちが更に増えるとうい。 ・挨拶ができない児童が挨拶を自ら行えるようになるには、何が必要なのか課題への対策が明確になっていない。</p>	<p>・挨拶は社会生活、コミュニケーションの基本。児童一人一人が自然に挨拶ができるよう日常的に指導し、伝統的に実施している特別活動部が推進する「あいさつの輪運動」を継続していく。学期ごとに、学年別に主体者となって取り組んでいることが意識付につながっている。児童会も推進のためのよびかけや取組を工夫している。同時期に、家庭や地域でも呼びかけられるよう発信していく。</p>
<p>「やさしい言葉はやさしい心」を意識させ、相手の気持ちを考え、時や場に応じた丁寧で正しい言葉遣いについて指導する。</p>	A	生活	<p>【成果】 ・教員が丁寧な言葉遣いを心がけており、全体として優しい言葉を意識しようとする姿勢がある。 ・「やさしい言葉の木」など、友達の優しい言動を見つけて共有する取り組みが効果的であった。 ・優しい言葉遣いを浸透させるためには、児童の心理的安定を大切にするという視点が職員間で共有されつつある。</p> <p>【課題】 ①地域として、家庭での言葉遣いに課題があり、その影響が児童の言葉遣いにも表れている。 ②学校で指導しているものの、優しい言葉遣いが全員に定着しているとは言い難い。 ③児童が安心して優しい言葉を使えるようにするには、心理的安定の確保が不可欠だが、その実現は容易ではない。 ④生活指導上、厳しい指導が必要な場面があるため、「優しい言葉」だけでは学校全体の安定を保つことが難しい状況がある。 ⑤家庭と学校での言葉遣いのギャップが大きく、学校だけの取り組みでは限界がある面がある。</p>	<p>①～④まずは教員が感情に走った言葉を使わないように引き続き意識し、諦めずに粘り強く指導する。家庭での言葉遣いの影響は非常に大きいため、道徳授業地区公開講座等の折に保護者にも啓蒙する機会を設けられると良い。</p>	<p>・児童の言葉遣いについては家庭での取り組みが大きなウェイトを占めていると感じる。また、TVやインターネットからもたらされる言葉遣いへの影響は大きい。 ・友田小学校の言葉遣いへの指導は、継続した取り組みとなっており、意識している子どもたちも多いように思う。 ・気持ちが不安定な時にも落ち着いて、自分の気持ちを適切な言葉で伝える力を身に付けていくことができるよう、反復練習ができるとよい。 ・デジタル化が進む世の中で、言葉によるコミュニケーションが少なくなってきたように感じる。そのような現状だからこそ「正しい日本語」を学ぶ機会を子供たちにたくさん与えてほしい。</p>	<p>・言葉遣いについては、実態アンケートでも、課題のある項目である。永遠の課題として、日常的に意識し、粘り強く指導を継続していく。さらに、家庭環境も大きいので、保護者会や道徳授業地区公開講座の協議会等でも、課題や家庭教育の工夫などを共有していけるようにする。</p>
<p>児童相互の交流活動の充実を図り、互いを思いやり他者を意識した行動ができるよう指導する。また、いじめの芽となる人間関係の調整を早期に</p>	B	生活	<p>【成果】 ・いじめ防止週間の取り組みが丁寧に行われており、教員も日常的にアンテナを高くして児童の様子を見取っている。 ・学校全体で「チームとして動く」意識が共有されつつあり、児童支援に対して組織的に取り組もうとする姿勢がある。 ・児童同士・児童と教員の双方が、ゆとりをもって安心して生活できる環境づくりを重視する考えが広まっている。 ・学校全体で児童の心を育むための共通理解を図ろうとする意識が職員に根付き始めている。</p> <p>【課題】 ①相手に優しく接しよう意識できない児童がみられる。 ②指導はしているものの、思いやりが不足している児童が一定数いるという実態がある。 ③児童や教員が安心して生活できる環境をつくるには、心理的ゆとりや時間的な余裕が必要で、それが十分に確保されていない。 ④個々の教員の指導に任せただけでは限界があり、学校全体として心の育成にどう取り組むかの共通理解が十分に整っていない。 ⑤優しさや思いやりの定着には、学年や学級の実態に大きな差があり、系統的な取り組みが必要である。</p>	<p>①,②,⑤優しさや思いやりの定着を目指すためにどのような系統的な取り組みをしていくのが効果的か、家庭との連携も含めて検討していく。 ③④いじめの芽が出る前の種の段階で共有する。課題の大きな児童の共有で時間がとられてしまうが、気になった段階で生活指導終礼等で報告し合い、教職員全体で見守る環境を作っていく。</p>	<p>・引き続き児童と教員の信頼関係を構築していく必要がある。 ・思いやりについて考えた、相手の立場になって考えたりすることが重要である。児童と「読み聞かせの時間」等を利用して話し合うのも有効であると思う。 ・読書や実体験を通して視野を広げるなどの取り組みが効果的である。 ・児童間のトラブルについては、教職員が丁寧に対応していると感じている。引き続きアンテナを高く張り指導に当たってほしいと思う。</p>	<p>・東京都教育ビジョンにある「東京の目指す教育」には「誰一人取り残さず・・・」があり、本校の学校経営方針も「子供一人一人が輝く楽しい学校」である。一人でも、悲しい思いが継続するような状況を放置する訳にはいかない。そのため、教員はアンテナ高く児童の様子を見取り、一人一人の困り感の解消に努力していく。そして、本校の連携力の強みを生かし、迅速な情報連携の下、チームとして解決を図っていく。</p>

2
豊かな心

<p>なる人間関係の調整を定期的に 行い、安心して生活できる教 室環境を築く。</p>	B	特 活	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校内研究で取り組んでいる内容が少しずつ日々の特別活動に浸透してきている。 ・「話し合いの10の約束」を活用しようとする姿勢があり、話し合い活動の質を高めようとする意識が育っている。 ・特別活動の充実が学級経営の安定につながり、児童が「学校は楽しい」と感じられる環境づくりに貢献している。 ・たてわり活動、クラブ活動、委員会活動など、学年を超えた活動が積極的に行われ、児童の体験が広がっている。 <p>【課題】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 合意形成を目指した学級活動が十分に成立しておらず、児童の話し合いが深まりにくい。 ② 専科教員にとっては特別活動を指導する場が少なく、回答や取り組み方が難しいという側面がある。 ③ 特別活動が充実しても、学習理解が追いつかない児童がいると学級全体の安定に影響するため、学習面の支援も併せて必要。 ④ 校内研究の成果をより確実に授業や学級活動へ活かすためには、全職員での共通理解・実践のさらなる定着が求められる。 	<p>①②研究と連携し、学級活動の指針になるようなものを教育計画に入れ、全職員が共通理解できるようにする。</p> <p>④研究と連携し、研究主題の副題 ～受け止める・認め合う集団を目指して～についても成果と課題をまとめ、次年度に生かしていけるようにする。</p>	B B B B B	<ul style="list-style-type: none"> ・児童同士が関わる活動が広がっているように思える。 ・たてわり活動、クラブ活動、委員会活動等で、他の学年の児童と関わる機会は、リーダーシップを育てたり、互いに助け合ったりすることを学べる、よい機会だと思う。引き続き継続して欲しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・研究の取組とも相まって、特別活動の充実が図られ、自己肯定感の高まり、関係性の深まりなど、児童が楽しく学校生活を送る一助となっている。引き続き、一人一人の児童が、自己効力感をもち、主体性も高めていけるよう指導していく。
---	---	--------	---	--	-----------------------	--	---

<p>【経営目標】 心身ともに健康な体を育成する</p>
<p>〔本年度の重点〕 健康な心と体を育成するため、自ら運動に親しみ、健康への意識を高め、心身共に健康的な体を育てる</p>

具体的な方策	評価	担当	分析結果	改善策	学校関係者評価記入欄		学校の見解と今後の方向性
						コメント	
<p>「1日1回は外で元気に遊ぼう」を奨励し、持久走旬間、縄跳び旬間を重点に、運動に親しみ、体力を高める。</p>	B	体 育	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童は体を動かすことが好きで、外遊びや運動に対する意欲が高い。 ・中休みや昼休みに「外に出る」習慣がある程度定着しており、児童が積極的に体を動かしている。 ・持久走や縄跳びの取組も計画的に実施され、運動の機会として効果が期待できる。 ・教員が児童に声をかけながら外遊びを促進するなど、指導者側の関わりもある。 <p>【課題】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 外遊びや運動の機会が持久走・縄跳びや特定の時間に偏っており、それ以外の時期の運動量が不足しがちである。 ② 外遊びや運動活動をより積極的に推進するためには、ボール等の用具の充実が必要。 ③ 図書室活用と外遊びの時間確保との兼ね合いを検討する必要がある。 ④ 今後、学習指導要領の改訂や時間割の柔軟化に応じ、朝登校後の朝遊びなど新たな運動時間の確保も検討課題である。 	<ol style="list-style-type: none"> ①②クラスボールを2つずつに増やす。フライングディスクが30枚程あり活用したい。上校庭の割り振りを低学年、高学年に分ける等、段階的になくしていく。 ③外に出ず図書室に固まっている児童もいる。特活部（図書委員会）との兼ね合いを検討し、図書室の開館を昼休みだけにする等して中休みに外に出る児童を増やしていく。 ④朝の時間は短く、校庭の児童管理の問題もあるため。新たな運動時間の確保は難しい。 	B B A B B B	<ul style="list-style-type: none"> ・生涯学習の観点から、人生を楽しむことのできる丈夫な体作り継続して取り組ませたい。 ・健康な身体づくりの為に、できるだけ外に出て体を動かす機会をもつことができるよう配慮をお願いしたい。 ・夏の暑い時期は熱中症の心配があり、グラウンド以外（空調の効いた体育館）でも身体を動かせる機会があるとよい。 ・運動会、マラソン大会など運動系の行事に元気に取り組んでいると思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体育や休み時間に活用できるボールなどの充実を図る。 ・外遊びは、引き続き、一日一回は外に出て遊べるよう声をかけていく。 ・図書室の開放について、昼休み限定とし、図書委員会児童も中休みに外遊びができるようにする。
<p>3 健やかな体</p> <p>体力テスト結果の課題を意識し、体育指導（運動の量・質など）を充実させ、体力向上、健康増進、運動の日常化に努める。</p>	B	体 育	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体育の得意な先生がいらっしゃるため。相談しながら児童の運動指導を工夫して進めることができた。 ・単学年であるため時間割の柔軟性が高く、体育館や校庭を確保しやすく、体育の授業は充実して実施できている。 ・児童の運動能力や課題に応じて、体力テストの結果だけでなく個別の課題を考慮した指導を意識している。 ・体育科の年間計画の見直しを通じて、用具や場の準備を共有し、効率的な運動指導を進めようとしている。 <p>【課題】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 夏の暑さにより、児童の外遊び習慣が低下している。 ② 体育館を休み時間に開放することは職員の負担が大きく、代替手段の検討が必要。 ③ 運動用具や教具の充実がまだ十分でなく、児童の運動能力向上のために改善が必要。 ④ 体育科年間計画の調整や準備の共有をさらに進めることで、より計画的な指導が求められる。 	<ol style="list-style-type: none"> ①②昨今の環境では夏に外遊びができないことは致し方ない。中休みに外で遊べなかった場合のみ昼休みに体育館を開放するというルールを周知を徹底する。今年度からの取り組みのため、来年度も継続してブラッシュアップしていきたい。低学年の児童管理のためルール作り等が必要かもしれない。 ③職員作業等の機会に体育用具倉庫を整理する。校庭用の大きいタイマー、カラーコーンを整備したい。その他、的当て、セストボール等、予算をみて購入を検討したい。 ④単学年で授業の用具準備も負担が大きいため、年間計画を見直して同じ種目を同じ時期に設定できるようにする。準備が必要な場合は、事前に複数人で準備する。 	B B A B B B	<ul style="list-style-type: none"> ・夏の暑さ対策は学校に限らず大きな課題である。（運動会・盆踊り・資源回収など）実施する季節・時刻を精選する等できるだけ対策を講じる。夏場は今後空調付体育館の活用が必要になると思われる。 ・運動が苦手な児童に対しても、運動の楽しさを感じ身体を動かす習慣を身に付けることができるよう、引き続きご指導をお願いしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度から実施した暑い時期に、外遊びができないときは、学年で曜日を決めて体育館で体を動かせるよう取組を継続する。 ・体育用具の充実を図り、職員作業等で、体育倉庫を整え、使いやすくする。 ・主に低・中・高学年で体育の指導計画を調整するとともに、固定時間割を調整するなど、準備共有ができるよう工夫していく。 ・体育主任を中心に、OJT研修を通して、体育の指導を学び合っていく。
<p>定期健康診断の結果や児童の実態をもとに、児童及び保護者の健康管理への意識啓発に努める。</p>	B	体 育	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・養護教諭が適時的確に対応しており、職員が安心して健康管理を任せられる体制が整っている。 ・保健だよりを通じた啓発活動が定期的に行われており、児童も内容を意識して読んでいる。 ・健康管理や啓発活動が学校全体として継続的に行われており、一定の効果が見られる。 <p>【課題】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 健康管理に対する児童の意識は全体的にまだ低く、さらなる啓発や習慣化が必要。 ② 保護者も文章を読む余裕がないので、データを基にした視覚的な情報提示をより多くすることで、啓発効果をさらに充実させることができる。 	<ol style="list-style-type: none"> ①児童の健康意識を高めるため、今年度から学校歯科医を招いて3年生対象に歯科保健指導を実施する。身体測定前の保健指導も継続し、引き続き啓発に努めていく。 ②保健だよりイラスト等を効果的に使い、視覚的な情報をより充実させる。 	B B 回 答 B B B B	<ul style="list-style-type: none"> ・養護教諭に健康管理を任せられる体制はとても重要であると思う。 ・子供が学校で体調不良を訴えたり、怪我をしたりした際には、すぐに連絡が入り、丁寧に対応してもらっているので大変助かっている。 ・健康管理への意識・啓発については、積極的に取り組んでいると感じている。更に活発な情報発信を望む。 ・児童及び保護者に対して発信する内容に、栄養学についての情報を入れてはどうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的に行っている保健だよりを意識的に担任からも指導するとともに、身体計測時に、養護教諭からショート指導を継続する。保健だよりはスクリーンでも送り、保護者にも役立ててもらおう。 ・今年度から実施した歯科校医による「歯科保健指導」を毎年3年生で実施していく。 ・健康の基盤となる食育（栄養学）の視点にも配慮していく。

<p>【経営目標】 学校・家庭・地域が一体となった開かれた学校をつくる</p>							
<p>〔本年度の重点〕 地域の教育力を活用し、教育活動の充実を図り、郷土愛を育む。</p>							
具体的な方策	評価	担当	分析結果	改善策	学校関係者評価記入欄		学校の見解と今後の方向性
						コメント	

4 地域と共に歩む学校づくり	学校・学年での様子を、各種便り、スクリレ・HP等を活用して広く公開する。	B	学 情 図	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 専科の先生方を中心に情報公開が行われ、担任も学級通信などで情報発信を行っている。 校外学習や学校行事に関して、できる範囲で情報を共有し、保護者への配慮がなされている。 個人情報の取り扱いに配慮しながら、学校として情報発信の体制を整えている。 <p>【課題】</p> <ol style="list-style-type: none"> 児童対応が多く、事務時間が不足しており、情報発信や記録の時間を確保しにくい。 校外学習など一部の情報がHPに掲載されない場合があり、保護者に十分に伝わらないことがある。 学年によって活用状況に差があり、保護者の不満や不安につながる可能性がある。 情報発信が緊急性や学校側の都合に偏っており、地域との連携や開かれた学校作りの視点とはずれがある。 地域一体型の学校運営について、学校全体で共通理解と方針を整理し、議論する必要がある。 	<p>①②今年度は人員不足により、打ち合わせが十分でなかったり、掲載が難しいこともあった。だが、今後もICT支援員とも協力してHPに掲載できるように努力していく。</p> <p>③不満や不安につながらないように、スクリレでのお便りやHPを活用して満遍なく公開している。今後も継続していく。</p> <p>④⑤朝会での校長の話や校内掲示、また、地域とのつながりある学習の様子などを、適宜発信することで、開かれた学校づくりを推進していく。</p>	<p>・ICTを活用した情報展開は今後ますます重要になっていく。</p> <p>・スクリレには限定的ではあるが返信機能がある。しかし、現在はあまり有効活用されていないため、今後の課題となる。スクリレの使用は定着してきており、情報発信の手段として有効活用されていると思う。</p> <p>・学校便りが自治会の回覧で回ってくるが、自治会の加入率も高くないので公開方法については検討の余地があると思う。</p>	<p>・各学年や学校のお便りをスクリレでも、即時送ることで、情報共有が進んでいる。これからも、継続していく。</p> <p>・ホームページについては、前年度と比べると情報発信を進めることができた。専科教員や管理職など役割分担の中で、無理なく発信を継続していく。</p>
	地域人材の活用や文化財に関する学習や自然環境を生かした学習等を通して地域愛を育む教育（青梅学）を実践する。	B	教 務	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 講師による玉川上水の話や、友田小のお囃子体験など、多様な学習活動を児童に提供できている。 どの学年でも様々な取り組みが行われており、教育効果が十分に上がっていると感じられる。 地域文化や地域資源を活用した体験学習を通して、児童の学びの幅を広げている。 <p>【課題】</p> <ol style="list-style-type: none"> 実施の様子や成果が十分に把握されていない部分があり、全体としての効果の見える化が課題。 青梅学に関する取り組みを整理し、単発の活動（お囃子、講談、ヤマメ飼育体験など）がどの位置づけになるか系統的に考える必要がある。 活動が単発で行われているため、青梅学の全体的なカリキュラムとしての整合性や連続性を検討する必要がある。 	<p>①OJTで各学年独自の取り組みを紹介していく。</p> <p>②③来年度、周年行事と連携しながら、様々な取り組みを友田小としてどの位置に取り込んでいくか検討していく。</p>	<p>・青梅市及び自治体、企業を活用した取り組みも有効であると思う。</p> <p>・郷土愛は体験や地域の人々から受けた愛情から生まれると思う。児童に是非とも必要な取り組みである。</p> <p>・地域の人材活用の具体例を学校だよりやスクリレ等でPRすると共に、人材募集も具体的な仕事の内容を明確にして進めて欲しい。</p> <p>・自分の住んでいる友田町、または青梅の歴史知ると言う事は大きな意義がある事だと思う。これからも、継続を希望する。</p>	<p>・成果に記載の通り、各学年で地域の方々に来ていただき、友田小ならではの特色ある学びを進められている。これを教員の異動があっても、継続して行えるようカリキュラムに位置づけて実施していく。</p> <p>・50周年の節目の中、次年度は、開校当時のことや学校や地域のことを知ることができるよう取組を進めていく。</p>

5 その他の重点	【経営目標】 指導力等の向上を図り、組織的で協働的な学校体制をつくる					
	〔本年度の重点〕 業務の効率化を目指しつつ、指導力の向上等、人材育成を推進する					
	具体的な方策	評価	担当	分析結果	改善策	学校関係者評価記入欄 コメント
	学校の見解と今後の方向性					
教職員間の連携を密に取り、校内研究やOJT研修会などの学び合いを通して、教員の資質や指導力向上を図る。	B	担当	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> OJT研修が計画的に進められており、職員の指導力向上の機会が確保されている。 研修を通じて他の教員の実践を知ることができ、学習指導の参考になってきている。 新任職員や異動者に対して、段階的に研修や支援が提供される体制が整いつつある。 <p>【課題】</p> <ol style="list-style-type: none"> OJT研修の日程が行事等と重ならないよう調整する必要がある。 職員の体調不良や人員体制の厳しさにより、研修時間や講師の確保が十分でない。 プライバシー保護の観点から情報共有が制限される場合があり、児童指導に必要な情報が早期に伝わらないことがある。 OJTをさらに有効に活用するため、勤務時間内での時間確保（例：30分枠）など、計画的な研修運営の工夫が必要。 教科の学習参観や研修参加をもっと気軽に行える環境づくりが求められる。 	<p>①④時間確保が十分にできるよう、日程の設定を検討する。時間確保が難しい場合は、学情図中田先生先導のもとGoogleチャットを活用した研修を計画する。</p> <p>②友田小の先生方は、ベテランで実力のある先生が多いのですが、なぜか講師依頼をしても遠慮される方が多いので、今後の依頼方法について検討する。</p> <p>③青梅市のポリシーにのっとり、今後でもできる限りで対応していく。</p> <p>④青梅市のポリシーにのっとり、今後でもできる限りで対応していく。</p> <p>⑤毎学期、授業参観の指導案を全員に配布しているので、それに合わせて授業を見に行く形がよい。</p>	<p>・外部機関を活用した効率の良い研修を検討すべきである。</p> <p>・時間のない中、研修時間を生み出し、継続してOJTの取り組みが行われ、資質向上を目指していることは大変素晴らしい。</p> <p>・教職員が奮闘している事は理解しているつもりだが、如何せんマンパワーの不足は否めないと思う。今後も広く人員を獲得する努力が欠かせない。</p> <p>・友田小学校の教職員は、子供たちのためにたゆまぬ努力を続けていると感じる。</p>	<p>・月1～2回、実施しているOJT研修により、ICT機器の活用をはじめ多分野の学び合いが進んでいる。全教員が自分の得意分野や研修した内容を一度は全体共有できるよう計画を立てていく。</p> <p>・授業を互いに観合う機会をこれからも大切にしていきたい。</p> <p>1・2学期の授業参観の際は、指導案を全教員に配布し、日程も早めに分かるようにし、計画的な参観を心がけていく。</p>
「チーム友田小」として、教職員がそれぞれの持ち味を発揮し、協働して指導にあたる。教育目的を担保しつつ、業務の見直しおよび効率化など、働き方および働きがい改革を推進する。	B-	管理職	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 職員同士が声を掛け合い、助け合いながら業務を進める文化がある。 ベテラン職員の知見やアイデアを相談することで、指導力向上や業務改善に役立てることができている。 管理職のリーダーシップにより、職員がこまめに動きやすい環境が整えられている。 <p>【課題】</p> <ol style="list-style-type: none"> 業務やイベント、人員配置などの情報共有が不十分で、進行状況が分かりにくい場合がある。 一部の職員に業務が集中し、特定の「できる人」に負担が偏る状態が続いている。 教育活動が個人の頑張りや依存しているため、持続可能な組織運営の見直しが必要。 行事の精選やタスクの整理など、業務効率化の取り組みが求められる。 ベテラン職員の知見やアイデアをもっと簡単に共有できる方法を確立し、働き方改革や指導力向上に生かす必要がある。 	<p>①教育計画に記載されていないイベント等については、文書を起こし、関係する教職員と早めに連携できるようにする。</p> <p>②③業務ができるだけ分散できるよう分掌配置を心がけるとともに、分掌主任は計画等で配慮願いたい。さらに、持続可能な組織運営について、各分掌における工夫とともに、アイデアを求めたい。各教員の週持ち時数を減らす努力は継続していく。</p> <p>④行事の精選はかなり進んでいると思う。さらなる精選は教育目的とも勘案して、具体案を出していくことが大事である。</p> <p>⑤知見やアイデアの簡易な共有については、具体案を求めたい。各分掌でも話題とし、経営会議でも検討する。次年度から本格的に進めていく、周年行事の推進についても、新たに分掌を増やすことなく、協議日程含め校内研究に位置づけて推進する。</p>	<p>・仲間同士のコミュニケーションを大切にしながら組織の構築を進める必要がある。</p> <p>「ベテランの方が多い」という友田小学校の特徴を生かし、一人一人の教職員がより活躍できるよう、校務分掌の内容や業務量の見直し等、改革を進めていく必要がある。</p> <p>・管理職が強いリーダーシップを発揮し、組織全体を力強く牽引していってもらいたい。</p> <p>常にチームであることを意識し、組織として物事に取り組むことが肝要である。ONE FOR ALL ALL FOR ONEの精神を大切にしていってほしい。</p>	<p>・今年度は、複数の教員の欠員があったが、各分掌でそれをフォローすることで乗り越えることができた。（管理職も一部担った。）大変な面はあったが、助け合える教職員集団であることを誇りに思う。</p> <p>・方向性は、改善策に記載の通りだが、人事配置や校務分掌配置はできるだけ、業務の分散化を図れるよう努力していく。講師時数も確保できるよう申請し、教員の週持ち時数も減らせるよう努力する。</p> <p>・職層による業務の多少の違いはやむを得ないが、チーム友田小として「子供一人一人が輝く楽しい学校」を目指していく。</p>